

F-21 家庭経営の変動に関する生活史的研究(V) - 福島県郡山市湖南町調査を例
として - 家庭教育の実態
福島大教育。高橋キヨ子 他 7 名

目的 福島県郡山市湖南地区の農家の妻達(世帯主の母・妻・アトトリの妻)が幼時から結婚するまでそれぞれの生家で受けたしつけや習いごとの経験を調査し、各世代毎にどう変化したかを、主として家庭経営の変動との関連において把えたい。

方法 1972年8月の第1次調査で福良・三代・月形の各地区から主として世帯主の母と妻の二世帯からの聴取りを行い、全年12月から78年1月にかけてはアンケート調査により広く湖南全域からの回答を得て概要を把え、更に4月に補足調査をして事例的にアトトリの妻からの聴取りも加えて考察した。

結果 1) 対象のうち世帯主の母に当る人達の子ども時代 即ち明治末期にはすでに各村に小学校があり義務制も布かれていたが気候条件や交通不便の上に家の貧しさから多くは満身に就学しておらず 幼い弟妹のある者は、「子連れ通学」であった。従って昼も留守居の祖母の手伝いで10才頃からフロたき・はき掃除・イロリの火くべ・山や田への食事運び等生活に関する労働教育を受けたことになる。 2) 学校が終わると直ちに農業労働力として組みこまれ、田・山仕事を始め養蚕・糸とり・染め・織り等を祖母や母から仕込まれた。つくろいは家で習ったが裁縫は結婚前に外に習いに通った。 3) 時代が下がるにつれ農作業内容が変化し、衣類の自給度等が減少して行く中で生産技術教育は減退し、また生活技術的教育も漸次学校や社会に移されて、その面での母や祖母から伝達されることも急速に減減を辿るという傾向が見られた。